



平成 24 年 8 月 1 日発行
 第 7 号
 京田辺市観光ボランティア
 ガイド協会広報部編集
 ☎ 0774-68-2810

平成 24 年度事業計画について



小川祐輔代表

発足して 6 年目になりますわたくしたち観光ボランティアガイドの本年度の活動計画を紹介させていただきます。

今年は古事記が編纂されて 1300 年になります。そこでその記念として京田辺市の古事記ゆかりの地を楽しくウォーキングするイベントを計画しています。

また、昨年実施して大好評だった日本茶インストラクター指導の【玉露体験・宇治茶歴史街道ウォーク】。さらに新たに京田辺市民対象のメタボ対策の一環として【健康と歴史ウォーク】。そして定番となった【JR ふれあいハイク(JR 駅で年四回発行のパンフレットに掲載)】。等々、バラエティーに富んだ盛りだくさんの計画をたてています。

各イベントの実施日等詳細は市の広報誌に逐一掲載しますので、是非ともお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加いただきますようお願いいたします。わたくしたち観光ボランティアガイドは“京田辺市の隠れた名所”を皆様とご一緒にウォーキングできる日を楽しみにしています。(代表・小川祐輔)

シリーズ 京田辺の寺院仏閣巡り

須賀神社 (打田)

梅雨時にもかかわらず良い天候の日、須賀神社を訪ねました。

私と当神社の先代神主(現神主はご子息)とは元勤務の会社の同僚で 30 年来のお付き合いを



須賀神社

させていただいており、そんな繋がり、須賀神社の歴史についてお話を聞かせていただく事ができました。

当神社の主祭神は素戔嗚尊・猿田彦尊・大国主命です。古記に「普賢寺郷の朱智神社に遠く打田村にも天王社を」とあり、由緒ある神社です。明治に須賀神社と改められ、当主で 5 代目になるそうです。本殿は昭和 58 年に改創された府登録文化財で、銅板葺一間社流造、高欄の擬宝珠に安永 5 年(1776 年)の銘がありま

す。正面の木鼻は猿、桁隠しには菊花の手のこんだ彫刻があり、18 世紀中期を代表する神社建築です。祭礼は春・秋の 2 回行われます。正月の交通安全祈願や七・五・三のお参りに、隣町の学研・光台からも参拝者が来られます。打田の人口は昭和の 30 年代前半には 120 軒ほどの家があり、そのうち、南・北の 3 座が、お能を奉納していたそうで、その時の能舞台が残っています。現在は皆さんほとんど兼業農家で 80 数戸 240 人程度、この人達でこの神社を守っていくのは大変だとの事です。

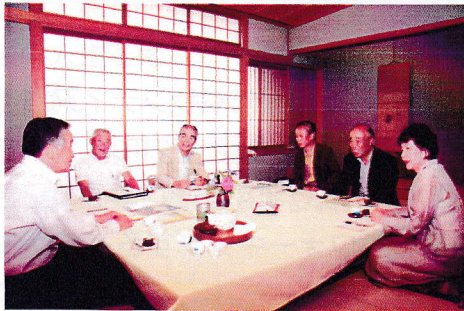
当地は京田辺市最南部でバスの便(朝夕各 1 本)が悪く、車がなければなかなか行けない所で、観光的には難しい所です。しかし標高 200m のこの台地は、緑につつまれた谷間を通る風が、爽やかな幸福を運んでくれる所です。

前神主の御長寿を祈って神社を後にしました。

(守口)

「石井京田辺市長との懇談会」に参加して

6月22日、京田辺市役所3階の茶室「和楽庵」で市民と市長が京田辺市特産の玉露を飲みながら「まちづくり」について意見交換をする「茶っとサロン」が開催された。



第一回目の「茶っとサロン」

第一回目の「茶っとサロン」は京田辺市観光ボランティアガイド協会が選ばれ、小川代表ら5名の会員が出席し、石井京田辺市長と気楽に観光行政の今後などについて話し合った。

小川代表から当協会の概要を説明し、出席会員の自己紹介の後、和やかな話し合いがもたれた。懇談会の間、市長自ら飯岡の玉露で心温まる接待をしていただいた。

私達からは「道の駅の施設」、「一休とんちロードと景観の整備」、「甘南備山と国道307号線へのアクセス確保」、「防賀川の水辺の整理」等の提案をさせていただいた。これに対し、私達の話真剣に聞いていただいた市長から「予算の関係もあり、議論をして、今後の

観光行政の検討に役立てたい。これからは気軽に意見を寄せていただきたい」と述べられ、京田辺の将来展望について熱く語られた。



石井市長とガイドメンバー

気楽に忌憚りの無い意見をいう事で、あっという間の1時間半でした。

(村上)

「観光ボランティア協会養成講座」を受講して

二年前、ぶらりと澤井家に立ち寄ったところ、「観光ボランティア協会」の名札を付けた私の友人が、お客様の前で、澤井家について説明されているのを聞いて感動し、機会があれば自分もやってみたいと思っておりました。

そんな時、広報「京たなべ」で観光ボランティア四期生の募集を見て、早速応募しました。



講習会風景

入会当初、観光ボランティア協会の内容、組織、構成等、全く解りませんでした。一月から始まった3カ月間9回の養成講座を受講し、関係機関の人々の説明や、先輩ガイドの親切丁寧な講義を受け、最近やっとアウトラインが見えてきました。



現地研修

今後は京田辺市のボランティアガイドとして、一生懸命勉強し、事業推進プロジェクトの一員として、会の運営等々に協力し、京田辺市の観光事業の発展に微力ながら寄与できれば幸いです。

(柳生)



養成講座最終日

ふれあいハイク春号

「牡丹の花と故郷の景色

が残る京田辺の山里を歩く」

4月30日、薄曇りの朝、参加者が続々と集まり、総勢118名と多数の参加を頂きました。奈良交通の三台のバスに分散し、JR三山木駅を出発しました。

昨年と同じ行程で、京田辺市南部の尾根を歩きながら、おしゃべりを楽しみ、鶯の声に耳を傾け、山間にある棚田風景に



打田の棚田

目を見張り、山道に群生している「うらしま草」

に感動しながら目的地を目指しました。途中、高船の極楽寺、天磐船を巡り、京田辺の最高峰・千鉢山に立ちました。ここは大阪の米相場を旗信号でいち早く伏見に伝える中継点であったとされています。

朱智神社で昼食をとり、今日のハイライトである牡丹園を目指しました。牡丹園の満開には少し早かったが、目を見張るばかりの光景に感激しました。また無二荘の御当主・辻尾さんからお話しも伺うことができ二重の喜びでした。



無二荘牡丹園展望



牡丹の花

高船の加工センターや普賢寺ふれあいの駅で求めたお土産を手に、観音寺から筒城宮跡を巡り、同志社大学で解散しました。曇り空が幸いし、歩くのに最適の1日でした。

(高橋)

今後のJRふれあいハイクのご案内

9月22日(土)

「初秋の甘南備山から平安京を望む」

JR 大住駅 9:30—虚空蔵谷川の滝—甘南備山三角点—甘南備神社—(一休寺)—JR 京田辺駅(14:30頃)、約7km

10月27日(土)

「千鉢山から甘南備山へ京田辺の雲上を歩く」

JR 三山木駅 9:15⇒バス⇒高船—千鉢山—朱智神社—穂谷—甘南備山三角点—JR 京田辺駅(15:30頃) 健脚コース、約17km

11月10日(土)

「古事記編纂 1300 年京田辺の古事記を歩く

①」

JR 三山木駅 9:30—佐牙神社—山崎神社—外国蚕飼育旧地—観音寺—酒屋神社—



酒屋神社

筒城宮址—JR 同志社駅

(14:30頃)、約8km

12月1日(土)

「玉露の産地京田辺でお茶の香りを楽しむ」

JR 三山木駅 9:30—寿宝寺—飯岡—草内昨岡神社—法泉寺—中部住民センター(玉露体験)—JR 京田辺駅(14:30頃)、約7km

各コースとも参加費 200 円。 但し別途拝観料必要です。弁当持参ボランティアガイドが、全コースご案内いたします。多数のご参加をお待ちしています。申し込み先 京田辺市観光案内所 TEL 0774 - 68 - 2810

[京田辺市の観光は観光ボランティアガイドをご利用ください。](#) 1グループ15名以下とし、1グループにつきガイド1名がつき、1000円を頂きます。詳細は観光案内所にお問合わせください。